

## 大学生の「授業の思い出」 —— そのデータベースの作成意義 ——

清水 秀美  
(教育実践総合センター)

### A Database of University Students' "Previous School Experience" and Its Necessity in Teacher Training Education

Hidemi SHIMIZU

(Center for Research, Training and Guidance in Educational Practice,  
Aichi University of Education)

本稿では教員養成における思考訓練の素材としてのデータベースを作成する必要性を述べる。作成に際しては、大学生を対象として、小・中・高の授業で一番心に残るシーンを、報告文として記述させた。この各報告文は約800文字(漢字と仮名)から成る。この「思い出」データベースの用途は、自己の教育体験を核にしつつも、他者の異なる体験にひろく触れることにより、教員養成系学生の、生徒に対する感受性訓練、授業テクニックの向上や教科内容習熟への動機づけなどを行うことにある。このデータベースには良い思い出のみでなく、苦い思い出も多く含まれる点で既存の教育関連記録と異なるものである。他者の多様な教育体験を共有し、それを素材とした教員養成のための思考訓練の可能性が示唆される。最後にこのデータベースを利用するに際しての留意点と、今後の拡充に際しての問題点等が述べられる。

キーワード：教員養成教育、教育体験、体験の共有、思考訓練、授業技能

#### 1 他者の心理状態を推察する能力

私たちは成長の著しい時期に、その多くの時間を小学校、中学校、高等学校で過ごす。学校も社会や家庭と共に私たちの人格形成に大きく関わっていることは確かである。しかしながら社会での人間関係の希薄化に加え、家庭でも親子の世代間の断絶が表面化してきている現在、学校での教師と生徒の関係はどうなっているのだろうか。教師の生徒の心理的状态を推察する能力は維持されているのだろうか。教員養成系大学では、教員志望学生たちに児童生徒の立場から自分の行為を客観的に観る能力の育成に努力しているのだろうか。

従来、教員養成系大学のカリキュラムにおいて、教員志望学生に各教科の内容とその教育方法の習熟が重視されてきた。しかし、実際の教室では教師と生徒との人間関係を媒介として学習がおこなわれる。従って、教師は自分の言動が生徒にどのような影響を及ぼすかについて明確な予測ができなければならない。教師の不注意な言動が生徒の学習意欲を著しく損なうのみならず、教師と生徒の感情的な対立にまで発展する例は少なくない。従って、教師は生徒の反応から、彼等の行動を読み彼等の心理状態を推察し、その情報を用

いて教育的対処行為を設計できなければならない。Peck, L.(1978)は前者を interpersonal sensitivity, 後者を interpersonal strengthと呼んでいる。

教育での人間関係の感受性の訓練は、Videoを用いた若干の例(MacDougall, M.A. and Brown, J.A.; 1974)はあるが、今日では積極的には行われていない。もうひとつの訓練の方法として、多くの人々の学校での体験に関する記録を詳しく読むことが考えられる。例えば椋鳩十編による「心に残る教師のこと」(1974)や未来社編集部編「十代にどんな教師に出合ったか」(1985)等がある。また完全な実体験記録ではないが、朝日新聞社編「ほんとうの教師はと問われて」(1981)がある。これらは教師の言動が生徒の人格形成に如何に深く関わるかを知るうえで貴重な書物である。しかしこれらの記録の多くは、名を成し、功成した人のものであって、彼らの価値観のフィルターを通して懐古された側面が強い。またこれらの記録は、偉大な教師との関連が多く、望ましくない教師や一般的な教師に関しての記述は遠慮から非常に少ない。

他者の心理状態を推察する能力の向上のために、ここで提案する一つの方法は、大学生に学校での授業の思い出を報告文として記述させ、それをデータベースとして活用するものである。大学生になっても思い出

される小・中・高の授業とは何かを問うことによって、時間経過に耐え意識の一角を形成するという観点から、教師の行動が生徒の人格形成の上でどのような意味を持つかを考える上で貴重な資料となろう。教員志望学生はこのデータベースを活用することによって、教師の行動の意味を深く洞察でき、人間関係の技能を磨く手掛かりとなるだろう。また教師と生徒との人間関係に限定されることなく、授業技能や教師行動習慣について考察する資料となるだろう。

## 2 データベースの意義

教育が人格形成に深く関係することは広く知られた事実であり、教員養成カリキュラムもこの線に沿って考慮され、教育心理や児童・青年心理を含む発達心理学の必修が規定されている。従って教員志望学生は心理学に関する一般的な法則性については学習する。しかし、実際の小・中・高の授業の中でそれらの知識をどのように活かすかに関しては殆ど訓練を受けないのが実情である。さらに、実際の授業ではあまりにも多くの要因のために法則は無効であると感ぜられることが多い。要するに知識は知識として、現場は現場としての棲み分けが行われているのが実情であろう。本データベースはこの隙間を少しでも埋めることを目的として作成されるものである（現在作成中）。

データベースの存在意義はある特定の価値観から取捨選択して作成されたものでないという点にある。あくまでも素材に過ぎない。従ってその利用方法は利用者の自由な意図に委ねられる。

多くの利用方法が考えられるが、学生の視野を広めるといふ観点からこのデータベースを用いる若干の例について述べたい。

### 2.1 他者の異なった受け止めかたを提示する

教員志望学生は自己の教育体験から、同様のすばらしい授業を教師になったらしてみたいという気持ちを持っていることがよくある。確かにこの体験は貴重なものであるが、他者の体験を参考にすることによって、自己の体験の位置付けが正確に行われ、教師技能の向上に役立つと思われる。

次の例は教師の無駄話（雑談）についての思い出文である。授業の状況はかなり異なるが無駄話（雑談）がいい思い出として残るか、悪い思い出として残るかの条件を考える上で参考となろう。

- KW:女子 高校3 国語 無駄話（雑談） 受験心の安まる 国語が好き

高3の時、国語の先生はいつも自分の若い頃の話をとくさんしてくれたので、毎時間の授業が楽しみで、あまり好きではなかった国語が好きにな

りました。今考えるとくだらないことばかり話してたけど、受験勉強で疲れてた時だから、私にとっては心の安まる授業でした。だから、私も先生になって自分の思い出を話してみたいと思いました。

- KW:三重 男子 中学2（3月） 国語 厳しい教師 教師の恋愛の思い出話（雑談、無駄話） 和やかな雰囲気 最後の授業

中学2年の3月に国語の先生が授業中に突然高校時代の話しを始めた。その先生は高校時代ラグビー部に所属していたそうだが、3年の最後の大会の日に前々から好きだった女の子に試合を見に来るようにと誘ったそうだ。試合当日、開始直前スタンドに目を向けても彼女はいなかった。中ば諦めかけながら試合を続けながら、思い出したように、スタンドを見ると、後方の席に彼女が座っていた…。その先生は厳しい人で、授業中にはいつも緊張した雰囲気があったが、その話しを聞いてクラス中は静まりながらも和やかな雰囲気になったのを覚えている。少し、照れたような笑いをうかべながら先生は教室を去っていった。それから僕はその先生に再び授業で教わることはなかった。翌年度の4月から、その先生は隣の学校へ異動したのだった。

- KW:女子 高校1 古文（古典） 無駄話（雑談） 授業の手抜き 古文分らない

高校1年生の時の古文の授業の時、その先生がすごい話好きで、1時間が50分の授業のうち、45分間ずっと訳の分からない話をし続けて、残りの5分間であわてて授業をするんです。

そのわけのわからない話というのが、「今の若者たちは、小さい頃からテレビをみてそだっていて、本は少しも読まない。そのテレビというのただ映像だけをバシャーバシャーと頭の中に送ってるだけで、なんの勉強にもなってないんだ。そんな君たちが、これからの世の中を背負って行くんだから、これからの世の中はどうなるんだろうね。」というようなんです。自分だってテレビを見ているくせに…。

同じような話を毎回もするもんだから、みんな覚えてしまいました。

（授業がしたくない時は、ありがたかったですけどね。）

やっぱり、5分間だけの授業では、テスト範囲に間にあわなくて、結果的に、他の先生に授業を借りて、余分に授業をやらなくてはならないんです。その授業もあわててやるもんだから、やっぱりわけがわからないんです。それも、「おまえたち、それぐらいわかるだろ！」っていうような態度で。

そんな状態で、テストに挑むんです。やる前から、結果がわかっているようなものですね。

やっぱり、結果は想像したとおりでしたけど……。

この先生のせいにははいけないんですけど、今でも、古文はわかりません。

- KW:男子 中学 国語 無駄話(雑談) いい加減な授業

私の一番心に残っている授業は、中学時代の国語教師の無駄話である。その先生はかなり変わった人で、どこからひっぱりだしてきたのかわからない妙な絵の描かれたプリントを配ってみたり、はたまた自分で流行を作り上げクラスではやらせたり、国語の担当のくせに日本語がなんかおかしかったり、へんなおっさんだった。

その変な国語教師はたまに授業に10分ほど遅れてくることがあった。そういうときは授業を最初はやる気がなく、「今日はね、」とけだるげに始まり、ひたすら無駄話になる。

自分の教育体験の範囲は狭いものである。自分の体験を核としつつ、他者の異なった体験との比較により、教師のある行動がどのような状況下で最も教育的な効果を持ち得るのかを考える上で有益な資料となるだろう。

## 2.2 生徒の反応への対処方法の選択の幅を広げる

時に、教師は生徒の反応に自分特有の一定の反応をとる傾向がある。例えば次の例に見るように、生徒は教師への愛情表現として悪戯を授業中行うものである。A教師はそれに優しく対応しクラスが和む。このような体験は女子のみでなく男子生徒にも見られる。一方、C教師は授業態度不真面目と言うことで成績減点処置にし、その生徒は先生への罪悪感と後悔の気持ちを持ち続ける。教師は教育状況に応じた対処方法の存在に気付き演技も含め柔軟な対処技能が要求される。

- KW:女子 中学1 教師への悪戯 数学 生徒中心

中学1年の数学の授業が、ちょうど、学校全体での避難訓練の時間という情報をクラスのだれかが得て、その数学の先生はすごく面白く、私たちのクラスで人気のある先生だったので、何とか授業を進めないようにしようと……みんなで考えました。私たちの学校では避難訓練の時、全員、必ず防災頭巾をかぶって避難していたので、授業の始まる前に、クラス全員頭巾をかぶって、きちんと席について先生が来るのを待っていました。そして先生が教室に入ってきた時の顔。一瞬おどろいてすぐ嬉しそうに、「君たちねえ……、やることかわいいねえ」と笑顔で今まで先生が生徒から

された悪戯の話しをしてくれたこと、忘れられません。

- KW:三重 男子 中学 音楽 教師に悪戯(注意を引く) 教師の怒りの予想 教師の受容 教師への好意増大

授業で一番心にのこっているシーンは中学の時の音楽の授業である。その日は実技テストの日でみんな笛の練習をしていた。私は順番を終えテストで吹いてしまっていたので暇になっていた。私はその音楽の先生が好きだったので、何とか先生の気を引こうとしてあちこち歩き回ったり廊下に出たりベランダから外に出ようとしてみたり(1階だったので)とはしゃいでいた。しかしそのくらいでは私だけが特別に目立っているというわけでもなく先生もテストで忙しかったので私のことを気にとめてくれなかった。その時私は先生の気を引くアイデアを思い浮べた。ベランダから校舎のわずかな段差を利用して、その教室を外側から一周できることに気づき先生の後ろに行き成績表を窓越しにのぞき見ようとした。しかし計画は失敗に終わった。窓越しに私の姿があることをだれかが先生に告げたのである。先生ははじめベランダから手招きしたが僕は得意になっていたので戻ろうとはしなかった。すると先生はベランダのドアと窓を全て閉めた。僕は先生は怒っていないかと心配して狭い段差を伝って、できるだけ急いで廊下の方へ戻った。教室に戻った時先生は怒っていないかと心配しながら入ったが、先生は「お帰りなさい」と言って笑って向かい入れてくれた。私はその先生がますます好きになった。

- KW:女子 中学2 国語 教師に好意 悪戯 教師怒る 成績評価下がる 後悔

中学二年生の国語の授業の時のことをお話しします。

その先生は、とても素晴らしいひとで愛教の卒業生でした。しかし、私達は、彼女をからかうことを計画しました。決して、彼女が嫌いだったわけではありません。しかし、好きであるが故にかまってもらいたい!という気持ちかはたらいたのかも……しれません。(°°;)計画は、実に簡単、かつ軽率なものでした。例えば、ある時間になったら(友達4、5人で)一斉にベンチを床に落として、またまたそれを一斉に拾う(椅子を思いっきり音を立てながら引き。)ということや、誰かが咳を始めたらみんなそれに従ったりなどe.t.c……。それとなく、彼女がうっすらなんか変だなと思う程度に計画をすすめたつもりなのですが、頭の良い彼女が気づかないわけがなかつ

たのです。彼女が、この子かな？と思う子達の名前をひかえてしまったのです。もちろんその中に私も含まれていたの、成績は下がってしまったのでした。

今はあの時のことを悔やんでいます。彼女が傷ついていないこと、そして、忘れてしまっていることを心から願っています。が( ^ ^;) 当時の私たちにとっては、おなかを抱えて笑いたくなるほど傑作なことで、もの凄くドキドキして、何の罪悪感もなく、先生をおちよくったのだ!!! やってしまった!! という妙な感動があり、私たちは満たされたのでした。

新田先生ごめんなさい。

### 2.3 教科の実力向上に志向させる

教科を教える実力のない教師は生徒に尊敬されない。尊敬されなければ教師は生徒の反応に不寛容になりやすい。一方、生徒に自分の方が偉いのだという錯覚をもたらし人格形成の上からも望ましくない。また教科内容を色々な角度から分り易く説明できる教師は自ずと生徒に接する態度にもゆとりが持て、緊張ある授業や和やかな雰囲気をもたらすものである。次の1番目の例は素晴らしい授業展開を行う教師への生徒の反応であり、後の2つは教科の実力が生徒から尊敬されていない場合である。

- KW:男子 中学1 国語 戦争中の話 授業方法 教師の心 感動

私が小学校、中学校、高等学校を通して授業で一番心に残るシーンは中学一年生の時に受けた国語の授業です。具体的な話の内容は覚えていませんがそれは戦争中の話でした。お父さんが戦争にでかけていってお母さんと子供たちが家に残されて大変貧しい暮らしをしいられて、一番したの弟がなくなってしまうという話で結末がどのようなだったか覚えていません。先生が朗読している時でした。「ヒロユキは亡くなりました。病名はありません。栄養失調です。」というフレーズを読み上げながら先生目から大粒の涙がこぼれ落ちた時何と表現したらいいか分かりませんでした。教室の雰囲気がものすごいものになりました。その時私は戦争の恐さ悲しさ映像や絵ではとても出すことのできない活字のパワーの偉大さ、その国語の先生の授業を展開する技術の高さ、そして何よりも先生のひたむきなハートを感じることができました。本当にその時は、そこが学校の教室であることを忘れさせられてしまいました。今もその先生のごことはとても印象に残っています。

- KW:三重 男子 高校 化学 教師の誤り 指

### 摘 得意

私が高校に通っていた頃、すべての先生たちが低能で俗物に思っていました。私だったらもっと良い授業をできると思ったり、もっと詳しく説明するのにも思いつづけていました。思い返せば小学校からずっとそう思っていたような気がします。心から尊敬できる有能な先生には出会ったことがありません。高校の化学の授業で“となりのメガネの子”と言われた屈辱感忘れ難いものです。同じく化学の授業で私はあまりに化学が得意なので授業の低レベルさにへきえきしていました。ある日先生が化学式のミスをして、周りの子がそれを写していたので、間違っているよと教えてあげていました。それが先生の耳に届いたらしく、質問されたので間違いを教えると、先生は顔を真っ赤にしておいかりになられたのもいい思い出です。

- KW:女子 中学2 国語 技量の低い先生 半面教師

中学2年のときに受けた国語の授業で、私が教科書を読んでいたときに、「岩壁」を「がんべき」と読んだら、「君はどうして、イワカベと読まないんだ!」と言われ そのことで、1時間中クラスで話し合いになったことをよく覚えています。

その先生は、臨時に来た先生だったのですが、国語の先生なのに、字がものすごく上手で(ウソ)、ミミズのはったような細くて薄い死にそうな字でした。話し方も、声が小さくて、何をいってるのか全くわかりませんでした。だから、その先生が話すときクラス中が大爆笑でした。よく、黒板に書いてある漢字が違っていました。今思ってみると、あれでよく教師になれたなあ、改めて思いました。

通常の国語の先生は、とてもとてもすばらしい人で、字も上手で、先生の鏡のような人でした。

私がもし先生になったら、あの先生みたいには、決してなりたくありません。

### 2.4 授業テクニック効果を検証する

授業を展開するのに色々なテクニックが用いられる。それらのテクニックの使用が果たして、有効に教育効果を発揮するのか、それをを用いる点での注意点を生徒側から検証することができる。ちょっとしたテクニックが温かな思い出として残る反面、何気なく用いる授業テクニックが思わぬ所で生徒の心に刺さるものであることに気付いていなければならない。

- KW:三重 男子 小学1 躰(生徒指導) 謝らせる 優秀な教師

小学校一年生の時の、ある事件の事を書きます。

それは、ノートをとられて、イタズラされるとい  
うものでした。そこで犯人は誰かということになり、  
犯人は名のり出ませんでした。しかし、この  
ような時期に、悪いことをしてそのままですませ  
る経験をさせるわけにはいかなかったのです。そ  
こで先生は、授業中にクラス全員に紙を配ってこ  
ういきました。「今から、この紙に心にやましい  
ことがない人は、“私はやっていません”と書き  
なさい。先生は、その紙に嘘のわかる薬をつけま  
す。嘘をついた人の字は赤く変わりますから、すぐ  
犯人は分かります。した人は今のうちにここに来  
なさい。」と言いました。そして、その次の時間  
に、犯人の子は、先生の所にあやまりに行きまし  
た。当然、そんな薬は存在しませんが、小学校一  
年生はそれを信じて自白したというわけです。こ  
の先生は、本当に優秀な小学校教師であったと、  
私は今でも思っています。

- KW:女子 小学6 優等生 算数 答えられない 恥ずかしい 教師になって生徒にこの思いを  
させない

小・中・高のほとんどの場合、周りからみれば、  
優等生として過ごしてきました。でも、その中で、  
一番恥ずかしい思いをして、心に残った授業があ  
りました。それを恥ずかしいけれども紹介したい  
と思います。

小学校6年生の時の算数の授業でした。いつも  
は、手を挙げて、当てられた者が答える形式でし  
た。しかし、そのときは、全員が立ち上がって、  
教室の後ろへ行き、分かったものから自分の席へ  
と戻れるというものでした。

「『49』は何の数字で割ることができますか?」  
それが先生の問題でした。

ほかの生徒は次々と理解して自分の席へと戻っ  
ていきました。しかし、そのときの私には、全く  
分からなかったのです。一人、また一人と、隣に  
いた友達が席へと移動し、最後には、私一人とな  
ってしまいました。焦る一方で、なかなか答えは浮  
かんできません。先生には、どうして分からない  
のと言われました。クラスのみんなのはやし立て  
る声で、顔はほてってくるし、頭はパニック状態  
で、なにも考えられなくなってきました。

先生の助言で、1から順番に考えていきなさい。  
と言われ、私は順番に考えていきます。

「1. 2. 3. …… 5. 6. 7!!」

やっとの事で、その数字を見つけることができ  
ました。その時の、ほっとした感じはもう例えよ  
うもないものでした。やっとの事で、答えを導き  
出すことができ、席に戻ってからも、放心状態。  
周りの友達の声も聞こえませんでした。

あんなに恥ずかしい思いをしたことは、今まで  
にはないですね。もう二度と、あんな思いはした  
いとは思いません。将来的に、教師になりたい私  
は、自分の持つクラスでは、こんな思いをする生  
徒を出したくはないと思います。そのためにも、  
これは、決してよい思い出ではないけれども、心  
に残り、将来役に立つ経験だと思っています。

- KW:女子 小学6 席替え 競争心をあおる教師 お世話になった

小学六年生の時の先生は、かなり変わっていた  
と思う。直接、授業のことではないかもしれない  
けれど、その先生は、席替えの仕方に特徴があ  
った。基本的に、どうやって席替えするかという  
と、テストの点数のよかった人から順番に並んで  
いくのである。一番点数のいい子(100点の子)が、  
一番前の一番右側で、そこから点数順に左に並ん  
でいくのだけれど、こんな制度があったとしたら、  
負けず嫌いの私としては、やはり一番の位置をキ  
ープしていたいという気持ちがはたらいってしまう  
のだ。

基本的に、私は、テストではたいにいい点が  
採れていたのだけれど、その先生の席替えでは、  
これが全てではないのである。だいたいテストの  
度に席替えをするという時点でかなり頻繁に席が  
替わっていたということが分かってもらえると思  
うが、授業中の態度によって、前の方になったり  
後ろに下げられたりするのである。1日のうちに  
何度も何度も席が変わってしまうのだ。一番前  
の列の右から四番目までの位置にいつもいたこと  
を、今でも覚えている。けれど、なぜか一番の席  
には、一時間か二時間しかもたなかったこともよ  
く覚えている。

この先生の、このような授業形式がよかった  
のかどうかはよくわからない。と言うのも私みた  
いにやる気になってがんばる子には効果的な方法  
だと思うけれど、テストの点数がみんなにばれ  
るのがいやで、悲しい思いをした子もいると思  
う。でも、やっぱり私にとっては、一番お世話に  
なった先生で、一番印象に残っている先生なので  
ある。

- KW:三重 女子 小学6 授業方法 発言を促す  
挙手 教師の方法に疑問 教師の方法に理解

小学6年の時、担任の先生は生徒の競争心をあ  
おるのが好きな先生でした。名前を書いたマグネ  
ットをクラス全員分作り毎朝、黒板の最上段に並  
べ授業中に発言するごとに、発言した人のマグ  
ネットを一段ずつ下げていくということを始めまし  
た。しかも1日、少なくとも一段はマグネットを  
下げるのが義務でした。挙手の仕方も三種類あり、先

ず意見がある場合に手を開いて挙手（普通の挙手）、その意見に対して先生が賛否を問う時、賛成なら人差し指を立てて挙手、反対なら手をにぎって挙手というふうでした。先生がなぜ発言することを強制するのか？

私はやっきになって発言を繰り返し、自分のマグネットがぬきんでて下がったことに満足し、喜んでいる同級生を見て、無性に腹が立ったのを覚えています。また“賛成です”と言うだけの発言でマグネットを一つ下げてもらえるという、人差し指の挙手も嫌でした。以来、私はめっきり発言しなくなりました。発言は自らの意志で行うことで強制されてするものでも、その数を他の人と競うものでもないはずです。私はもっと自由な意見交換の場を授業中に求めていました。

しかし今思えば、クラスの中で恥ずかしがって発言できない人がいないように、誰もが1日に1回くらい皆の前で口を開く機会があるように、必要なことだったのかもしれない。

## 2.5 既存概念の再吟味のために

物事は必ずしも、「いい」か「わるい」かのいずれかに該当するものではない。多くの生徒を教育する教師は多面的に物事を捉えらる習慣をつけなければならない。例えば教師による体罰は「わるい」という一般的な判断がある。次の例は一般的な判断に合致する体罰の例であると思われるが、2・3番目の例は体罰といえるか判断の分れる思い出文であろう。これらの思い出文は、教育に於ける体罰の意味を再吟味する上で参考になるかもしれない。

- KW:三重 男子 中学 保健 友達の私語 好意を持った教師 教師の暴力 正視できない

中学校のころ、保健の授業のことをよく覚えています。自分の目で見ただけではないので「シーン」ではないかもしれませんが、一番心に残っています。その保健の授業というのはとにかく厳しく、ささいな事で大変なめにありました。

ある日の保健の授業、友人のI君は友達と授業中に話をしたくて決められた席を換って授業中に私語をしていました。勝手に席をか変わったことに気付いた保健の先生（実はこの先生のことを僕は良く思っていました）はI君を立たせ（I君自体もそんな不良系でも何でもなかった子でした）、何回も何回も何等かの暴力をふるいました。ここで暴力といったのは僕等は自分たちの後方で起こっていることを正視できなかったからです。とにかく僕の学校ではよく先生から殴られたり、蹴られたりしました。しかし、この事件は僕が良い感情を抱いていた先生が何でもなかった普通の子（目立たない）

に暴力をふるったという意味で（口頭注意でよいのに）とても心に残っています。

- KW:女子 小学5 道徳 体罰 いや

小学5年生の道徳の授業が一番心に残っています。まず道徳の教科書を読ませ、読み終えると、クラス全員立たせます。そして質問に対して答えられた生徒は座れるのです。クラス全員座り終えるのに、算数の授業まで延長して道徳の授業を続けていました。

今思えば、その先生はよっぽど道徳の授業が好きだったのでしょうか。道徳の授業は毎時間いつも立ちばなしでした。すごくいやだったのを覚えています。今そういう授業をすれば体罰になるのでしょうか。

- KW:男子 中学2 音楽 教師の怒り 説教 教室の統制 教師の情熱

中学2年生の時の音楽の先生は小柄な女性の人でした。授業はいつもさわがしくみんなやりたいことをやっていた。例えば教室の後ろで輪をつくってしゃべったり、雑誌を先生の目の前でどうどうと広げていたりしていた。いつも先生は大きな声で静かにして、と言うのだが、誰も言う事をきかなかった。ある時など不良の子が授業中に先生のところに行き「通知表を5にしないとなくる」とすぐんでみせていた。当然そんな状態では授業にもならず、みんなで歌おうと先生が言っても誰一人したがわなかった。

そんなある日いつもと変らぬ授業の中でその先生が一番態度の悪かった生徒（不良のリーダ格の子）の所へ無言で近づきいきなりびんたをかました。その瞬間教室は静かになり先生は泣きながら説教を始めた。僕たちはその時、初めて先生の気持ちを理解し、その後の授業は今までとは全然違うものとなった。みんな静かになったし（一部にはさわがしい子供たちもいた）歌もうたうようになった。これは、先生の情熱が生徒に伝わった数少ない例のように思う。

## 3 データベースの利用上の注意点と今後の拡充に際しての課題

教員の資質向上が叫ばれて久しい。その間その為の色々な試みが教員養成系大学でなされてきた。模擬授業の一つであるマイクロティーチングの試みもなされた。教育実習の改善策として事前事後指導の充実も提案され実施されてきている。また模範授業のビデオ制作も行われ提供されるようになってきている。しかし、

実施が容易で、模範的なものに限定されるのではなく、一般的な素材をもとにした思考訓練の道具が存在しないのが現状である。教師の行為がどのように生徒に受け止められるか、その多様性を認識できることが教師の専門性を高める上で欠かせないと考えられる。もちろん教師には生徒の反応に即した適切な行為が求められる、その技能の修得には時間を要するものであるが、その時間短縮のためにも、このようなデータベースが求められる。これによって、各個人の教育体験を共通の体験として共有し教員養成教育に活用することによって、効率的な教員養成が可能になると考えられる。教育は「感と経験」に依る所が多いが、それを補助する上でも一層このようなデータベースの作成が必要ではないだろうか。

このデータベースを活用するに際しては、思い出として残っているからその教育方法が良いとか悪いとかの観点で活用すべきではない。例えば授業を俳句や観察のために教室の外で行ったことが思い出として多く語られるが、教育心理学などの一般的な法則性を背景として、思い出としてのシーンの背後にある日常の授業風景や、常日頃の教師と生徒の人間関係なども洞察する必要があるだろう。また教室外で授業を行うことの評価は、授業進捗との関係も視野に入れる必要もあるだろう。また思い出には教師不在なものも多く存在するが、その授業を設定した教師の配慮の記述は当然欠落している。重要なのはどうして当該授業が思い出として残ったのかを問う姿勢なのである。

今後の課題としては、このデータベースは大学生による授業の思い出であるが、大学に進学しない人々の思い出も採り上げる必要があるだろう。また時代に応じて新しい教育現象が次々に生じる。この点からもデータベースの継続的な拡充が望まれるので、その為の体制を考慮する必要が出てこよう。また著作権の問題などがあるが、書籍、新聞、雑誌などに散在する貴重な教育体験の取り込みも考慮しなければならない。

また教師の側からの授業の思い出データベースもあるべきだろう。すでに授業研究などで本格的なデータの収集が行われている場合もあるが、残念ながら収集年度が古くなっていたり、コンピュータによる簡便な情報検索が可能になっていない場合がほとんどである。また失敗例などの授業記録は少ない。教育に関連する様々な経験をデータベース化し、将来教員を目指す人の思考訓練の素材として活用するシステムの開発が待たれる。「感と経験」で対応するには無駄が多すぎる。子どもと同じ地平に立ちうる教師の育成に、彼らの思考訓練の素材として、このデータベースが活用されることを期待したい。

## 文 献

- [1] 朝日新聞社編 (1981)「ほんとうの教師はと問われて」朝日新聞社.
- [2] MacDougall, M.A. and Brown, J.A. (1974) The relationship video-taping experiences to classroom interactional behaviors and peer acceptance among elementary pupils. ERIC, ED09024.
- [3] 未来社編集部編 (1985)「十代にどんな教師に出合ったか」未来社.
- [4] 椋鳩十編 (1974)「心に残る教師のこと」 明治図書.
- [5] Peck, L. (1978) Interdisciplinary teacher training utilizing two theoretical models: Interpersonal sensitivity and interpersonal strength. ERIC, ED153981.

## Abstract

The purpose of this paper is to prove the necessity of a database, which will be used for improving prospective teachers' analyzing ability. University students are asked to describe the most memorable moment of their school life in the form of a report, which should contain about 800 characters, including both kanji and kana (the Japanese alphabet). These reports basically constitute the body of the database. This "Previous School Experience" database is created to improve the prospective teachers' instructional skills, along with developing their sensitivity to their students' psychological condition, referring not only to their own but also to others people's experience. This database contains along with some ideal cases a lot of unhappy experience basically connected with teacher's abnormal or violent behavior. A capable prospective teacher should know and be able to analyze other people's school experience, not just his own one. Thus the paper describes this database including its weak points, the problems connected with expanding it and where attention should be paid while using the database.

**Keywords:** PRESERVICE TEACHER EDUCATION, EDUCATIONAL EXPERIENCE, COMMUNIZE EXPERIENCE, ANALYZING ABILITY TRAINING, INSTRUCTIONAL SKILLS